

to tell the story
共同通信



WE ARE ALIVE
 日本基督教団

2005年7月20日 108号(318号)

西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

☎ 0798-67-4691 FAX 0798-63 Email: koudou@gamma.ocn.ne.jp

http://www8.ocn.ne.jp/~koudou/

兼管 01170-3-4901

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
 あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
 後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
 笑い 泣き 歯ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、
 今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 7

『西宮を離れて13年』

このたび、順子先生から懐かしいお電話をいただき、共同通信の原稿依頼を受けました。

こちらにきて13年になります。あっという間でした。いろんなことがありましたが、日々、神様に守られて恵みの道を歩ませていただいております。聖書のみ言葉にありますように、神様は私に必要なものは必ず備えて待っていてくださいました。急に引越しが決まり、ばたばたとこちらに来てしまいました。九州での暮らしははじめて、もちろん親戚知人もいない、夫は出張がち、幼子二人抱えて、一人で奮闘する覚悟でした。心の支えは、学生時代に譲り受けた日英両文の聖書と順子先生からいただいた讚美歌集だけ…。ある日、町の探検と称し

て子どもたちと歩き回っていたときに、国分教会を見つけました。なんと、家から10分のところ。そこは幼稚園と併設されていて楽しい曲が流れていました。そのとき、瞬時に思ったのです。「あっ、神様が先回りして待っていてくれたんだ。」と…。驚くことはそれだけではなかったのです。その10年後に、私はそこに勤めるように神様はご計画なさっていました。かつて西宮に在住されていた指宿文一牧師から洗礼を受け、その後、これまた、西宮と縁のある日下部克彦牧師(日下部遠志牧師の弟さん)のもと幼稚園の事務に励んでおります。職場のすぐ隣が礼拝堂とはなんとという恵みでしょうか…。日々の忙しきにかまけて、神様の

ことを考えなくなる不精な私にはこう
いう形で羊の群れから離れないように
繋ぎ止めてくださっているのだと神様
のご配慮に感謝します。就業前の静寂
のひとつ、礼拝堂にイエス様と二人
きりで祈るあの時間が今の私にはなに
ものにも変えがたい大切なものとなっ
ています。

息子は高3になり、国分市の海外派
遣生に選ばれ、この夏、アメリカへい
きます。当時、私に背負われて礼拝に
出ていた娘は中3、受験生。人生初の
選択のときを迎えております。

北島みゆき

(国分教会・国分愛の園幼稚園)

	日本基督教団西宮公会教会集会案内	
早天祈禱会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会教会2階和室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖書研究祈禱会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
オリーブの会	毎月第2火曜日午前10時から	於：西宮公会教会集会室

※8月は礼拝以外の諸集会是休会です。

2005年8月 あんなこと こんなこと...

- ☞ 8月 21日(日)にしきた夏まつり(予定)
- ☞ 8月 23日(火)～28日(日)
写真展「子どもの時代・子どもの時間Ⅲ」
(能勢と沖繩で過ごした子どもたちの写真展)
- ☞ 8月 28日(日)子ども津門川調査隊(近畿大学の
藤田朝彦さんの指導で、津門川に入って魚の調査)
- ◇ 関西神学塾...
・ 8月 22日(月)～23日(火)
関西神学塾・『教会と聖書』共催夏期合宿
講師：岩井健作先生、久保田文貞先生
於：神戸松蔭女子学院大学六甲セミナーハウス
- ◇ 津門川掃除...
・ 8月 7日(日)午後12時30分～、津門川掃除
- ◇ 教区で行われる集会など...
・ 8月 7日(日)午後4時半～、
平和聖日の集い、“映画/日本国憲法”
於：兵庫教区クリスチャンセンター、参加費：無料

小回りのまじく賢い学者になるより、対象にずっと感動と愛着とやら続ける動物学者になりたいと私は思う。それは、動物の視線に立って世界をながめられる悪直な態度と生き方を恐れない精神をもつことだ。簡単なことではない。私もなかなかその生き方をまっとうできていない。だから、自戒念と込めて私はこの本を書いた。

(山極寿一「ゴリラ」)

“パンと魚”の奇跡が、マルコ福音書(6章30～44節)とヨハネ福音書(6章1～15節)に書かれています。よく似た物語なのですが、そこで生きていた人たちの“食べる”ことについての向かいあい方が違っているように思えます。

マルコ福音書の場合、集まっていた大勢の群衆のことで、弟子たちは気をきかせて、「・・・もう時もおそくなりました。みんなを解放させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」と進言します。しかしイエスは「あなたがたの手で食物をやりなさい」と、問題を弟子たちに返します。“集まっていた大勢の群衆”は、自力で“めいめいで何か食べる物を買に行ける”人たちではありませんでした。そんなことは解りきっているのに、責任を回避しようとする弟子たちに、イエスは問題を返しているのです。この人たちが“自力で食べる物を買に行くなんで、無理にきまっているじゃないか。心配するんだったら、そんなことを言うあんた達が、食べる物を用意してごらんよ”。6章34節で「・・・飼う者のない羊のような」大勢の群衆にとって、“食べられる”ということは、あたりま

えではありませんでした。なのに、“めいめいで何か食べる物を買に行かせよ”とよそごとのように言ってしまうのが、イエスには許せなかったに違いありません。

そんなことの結果、イエスによる“パンと魚の奇跡で、群衆に食べる物が配られます。「・・・それから、イエスは五つのパンと2ひきの魚を手にとり、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、2ひきの魚もみんなにお分けになった」(マルコ福音書6章41節)。で、「・・・みんなのものは食べて満腹」します。そこそこ空腹を満たすぐらいでいいはずのところを、集まっていたすべての人が、“満腹”します。満腹などということは考えられもしない、多くの場合に腹ペこで過ごしていた人たちへの、この場合のイエスのプレゼントが満腹です。“空腹を満たす”ぐらいのことでは済まされなかったのです。

ヨハネ福音書の場合大勢の群衆の食べる物のことで「・・・どこからパンを買ってきてこの人たちに食べさせようか」と、先にイエスの方から口を切っています。で、それも「・・・ピリポをためそうとして言われた」のだ、となっています(6章6節)。そこに、大

勢の腹ぺこの人たちがいるのに、“ためそうとして”だとしたら、その人たちをもて遊んでいることになりかねません。とは言うものの、イエスの“パンと魚”の奇跡「・・・そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また魚をも同様にして」によって「彼らの望むだけ分け与えられた。人々がじゅうぶんに食べた」という結果になります。ただ、こんな風に言うてしまうのは、大勢の腹ぺこの人たちが、空腹を満たされた、そのことへの関心より、イエスの奇跡的力を誇っていると読めなくはないのです。なのに、「・・・少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」と言うてしまっているイエスから、この物語を書いているヨハネ福音書の著者の等身大の姿のようなものを想像してしまいます。なんやかんや言いながら、食べる物を粗末にするなどということはありません。

マルコ福音書2章23節以下には「・・・安息日に、イエスは麦畑の中をとおって行かれた。そのとき弟子たちが歩きながら穂をつみはじめた」ことで、居合わせたパリサイ人たちとの間に起こった論争のことが書かれています。パリサイ人たちは「・・・安息日にははならぬことをした」と言うて、イエスと弟子たちを批判します。イエスは、「ダビデとその供の者たちが食物がなくて飢えた時」「・・・祭司たちのほかに食べてはならぬ供えのパンを、自分も食べ、また供の者たちにも与えたではないか」と言うて反論します。イエスや弟子たちはもちろん、“供”で多くの人たちが腹ぺこで飢えていたのです。だからと言うて、何かがなし得た訳ではありません。そんな現実から目をそむけようとした人たちがいた時に、真正面からそのことに向かい合ったのが、“パンと魚”の奇跡であったように思えます。“満腹”にも意味があるのです。(菅澤邦明)

「聖書」に対する情熱、「宣教」に励む教会

関西神学塾・「教会と聖書」共催による夏期合宿の案内

日時 2005年8月22日(月)午後4時～23日(火)午前11時

場所 神戸松蔭女子学院大学六甲セミナーハウス

(神戸市灘区六甲山町西谷山 1878 TEL078-891-0828)

講師 岩井健作先生、久保田文貞先生

参加費 10,000円(宿泊費、夕食、受講費)

申し込みは7月20日までに、西宮門戸教会の木村宛にFAXをしてください。

FAX 番号 0798-51-4041

詳しい案内を希望される方は、木村宛お申し出下さい。

大切な贈り物・津門川 36

私が津門川と出会ったきっかけは、6月に関西学院大学で行われた総合関関戦の広報活動でにしきた商店街の方々とお会いしたことです。この総合関関戦をきっかけに関学体育会と地元の方々が交流を深め、一体となって西宮の街を盛り上げていきたいと考え活動していました。その折に商店街の方々が月に一度、津門川の清掃活動を行っていることを知り、関学体育会も参加させていただくことになりました。

津門川を清掃しておもったのは、川がとても綺麗だったことです。正直なところ始まる前は「汚いだらうから入るのは嫌だ」という声が多く、参加者から聞かれ、私も同じ事を考えていました。しかしいざ入ってみると川の水はとても澄んでいて、良い意味で予想は裏切られました。また、見た目以上に川の流が速く、何度も足を取られそうになったことも思い出されます。何より印象に残ったのは、地元の方々が清掃活動に前向きに取り組んでいた姿です。明るく、楽しく、時に真剣に自分たちの津門川を綺麗に保ちたいという思いがひしひしと伝わってきました。

実際に役にたてかどうかは不安でありませんが、地元の方々と関学体育会が少しでも交流を深められたのなら幸いです。私たちはこれからもこの活動を続け、地元の方々と一体となって西宮の街を盛り上げていきたいと考えて

います。これからもご声援の程よろしくお願いいたします。

(柳沢誉之)

☆7月上旬、毎年津門川にはたくさんの七夕の竹が飾られます。色とりどりの短冊や飾りを付けた竹が、今年も約100本津門川沿いを飾っていました。雨の日が多かった為、短冊が落ちてしまった竹もありましたが、にしきたの地域に流れる津門川と共に、季節を感じるひとときが持てました。



夏です。むちゃくちゃに降った梅雨はどこへやら、沖縄は真夏です。直射日光が強烈です。沖縄の言葉では「ていだ・かんかん(太陽がながん)」といいます。そんな中で台風5号がやってきて観光客もたいへんです。天気が悪いと、沖縄、ちょっと行くところがありません。

前回の最後に、沖縄の米軍基地についてちょっと書きました。そのあと、沖縄ではこんな事件がありました。7月3日、日曜日、小学生のA子ちゃんが朝教会に行こうと歩いていたところ嘉手納基地所属の米兵が呼び止められ上着をまくりあげるよう強要し、自分の携帯電話のカメラで写真を撮り胸をさわった、と4日の沖縄の新聞で報道されました。この米兵は日本の警察によって逮捕されましたが、戦後60年間米軍が駐留している沖縄ではなんともいえないやりきれなさがただよっています。9日の沖縄タイムスには20年前、高校生時代に米兵にレイプされた女性の沖縄県知事宛の「公開書簡」が掲載されました。それは「再び被害者を出したくない、証言が基地撤去につながるなら」という思いから語らざるをえないと決意されたものです。それにたいして町村という日本の外務大臣は、国会で米軍によって日本の安全は守られている、そういう面も忘れてほしくないかと答弁しました。公開書簡を書いた彼女は「二度殺された」と語りました。この彼女のことを、後藤はよく知っています。沖縄で生活する以前から顔見知りでした。

沖縄では、本当に、やりきれない怒りが沸々とあふれています。もちろん、怒りは出来事そのものに対する怒りでもあるのですが、何度もくりかえされる事件や事故、そしてくりかえされて出される「抗議決議」、そんな決議は何の役にも立たず、つまりは事件も事故もなくならず、もちろん基地はなくならない、そういうジレンマに対す

る怒りも含んでいます。また、脚光をあびる「闘争」や、愚にもつかない大学教授の論説などにさえ怒っているのです。もともと「怒っている県知事」稲嶺は米軍基地の存在を容認するとの公約で基地反対の当時の大田知事を破って当選したのです(1998年秋)。沖縄のほとんどの首長や議員も米軍基地容認によって占められています。そんな連中を選んでいるのは自分たちである、そのような自らのありように対しても怒っているのです。

沖縄自動車道のすぐ横に米軍の都市型訓練実弾演習場(金武町・キャンプハンセン内)ができ、実際訓練が始まっています。かつて、流れ弾が何度も飛んできました(西宮共同教会の良い子のお友達、沖縄自動車道を通るときは気をつけてね)。県は、先の「わいせつ事件」ではなく、「辺野古」でもなく、この「都市型訓練・実弾演習」に関して抗議の「県民大会」を開くことにしました。7月19日(火)の午後6時半という時間です。後藤は、その日、夜8時まで予定が入っていますので金武町まで行くのは困難です。「県民大会」とはいえ、県民の集まりにくい日程で、最初から「こんな程度の大会」でいい、という設定です。事実、国は冷ややか、県保守層も抗議はするものの「反基地闘争」なんかになってもらっては困るという意図がみえみえです。

で、まあ、沖縄に来て、米兵の事件や事故にまきこまれる可能性がないわけではありませんが、沖縄に住むものたちは、そんなところで毎日生活しているわけで、文字通り、毎日こぶしを振り上げて生活している人もいますし、自分の目の前の仕事にあくせくしているものもいますし、えへらえへらしているものもいるのです。

そんな沖縄に、でも、ちょっとのそきに、来て見ませんか。

(沖縄・与那原 後藤 聡)

筑豊かゝ (88)

田川に来て、初めての経験をしました。救急搬送と入院です。それは突然でした。7月16日夜、夕食を食べ終え、さて、これから翌日の礼拝説教の準備を、と思った途端でした。トイレに行っても何かしらお腹に違和感が。そのうち、腰も痛くなり、冷や汗が吹き出てきました。横になろうとしましたが、横にもなれないほどの痛みが収まりません。戸田が心配して、何やら電話をしています。小倉日明教会安田牧師のつれあいは泌尿器科の看護師。症状を説明すると、すぐに「結石ちゃうか、病院に行った方がよい」との返事。しかし土曜日の夜。とりあえず、田川市の夜間救急センターに車で行くことに。といっても、自分で運転出来る状態でもなく、家族5人全員で車に乗り込みました。救急センターでもますます痛みはひどくなるばかり。一通りの問診を受け、とりあえず点滴。そして採尿。トイレで一息懸命頑張るも、痛みやらでなかなか出ません。ちょっと出た、と思えば、自分でも分かるくらい赤い尿。やはり、尿路結石との診断でした。今まで病氣らしい病気をしたことがないことが取り柄でした。一方、病院や注射は嫌いで、昔、注射で意識を失いかけたこともあるくらい。看護師さんが採血や点滴、痛み止めのための注射をしていましたが、「注射嫌い」などと考えている余裕もありません。更に看護師は点滴針を失敗して、そこから血が逆流してやり直しています。抜いた所からは血が吹き出ているし、通常だったら、気絶しそうな光景でしたが、とにかくこの激痛をどうにかしてくれ、と苦しみ続けていました。その後、隣の町立病院に搬送されることになり、戸田と子どもたちは一旦家へ帰りました。戸田は近くの教会員に牧師館まで来てもらい、子どもの寝かし付けを頼み、一応の入院に必要なものを持って駆け付けました。搬送先の病院でも苦しみ続ける私。そんな中でも、翌日のことが心配です。翌日の説教担当は私。出来る状態になるかも分かりません。週報がどうのとか、礼拝後の会合も延期するだ

とか、苦しむ中でも打ち合わせ。そんな中、鎮痛剤もさほど効かず、坐薬も入れることにしました。すると段々意識が薄れ始め、痛みも感じず、どれぐらいか眠ってしまっていたようです。私はそのまま一泊入院。尿路結石は、治療のしようがなく、ただ痛みを抑えて、詰まった結石が流れるのを待つしかないということ。結石が動いているときが一番痛むそうで、後からいろんな人の体験談を知ることになるのですが、やはり相当の痛みだそうです。痛み続けている間、自分は痛がりすぎなのかとも思いましたが、ホント、耐えられる痛みではなかったのです。結局、戸田は1時過ぎまで私に付き添い、その後、帰宅して急遽、翌日の説教の準備をしたそうです。また直方教会本多牧師にも頼み、教会員と入れ替わりで夜中まで牧師館にいてくれたそうです。坐薬のおかげか、夜中には随分痛みは楽になりました。たくさん水分を取り、夜中にも何度かトイレへ行きますが、石が出たような感覚は感じませんが、午前中、エコーの検査をしました。特に詰まっているような感じではないと言ったことでした。それ以上に、医師に言われたのは、肝臓が白くなっている、脂肪肝の傾向があるから、一度検査が必要だということです。結石もショックですが、脂肪肝もショックでした。そんなに油物を食べているわけではないですが、お酒と運動不足が一因のようです。そんなショックを抱えつつ、まだ下腹に変な違和感を感じつつ、昼、退院となりました。実は、戸田は今4人目をお腹に抱える妊娠4ヶ月。自分自身もつわりで体調が悪い中、子どもを抱えて走り回り、急遽説教まで。病院では痛み続ける私の腰などをさすってくれていたようです。翌日、教会で「日下部も、今度の出産の時こそは、私の腰をさすってくれるはずですよ」と発言したそうです。私は出産には耐えられそうにもありません。それにしても結石は出たのか。もうあんな激痛、経験したくないものです。

沖縄島は“琉球弧”の広がりからは決して一つではくれないのですが、自然の豊かさと共に厳しさにもさらされてきました。

戻らん旅路ヨ一 かん切りなさや
語てい給り 子孫までいん

去年は雷たくさん落ちてですね
この電柱にもばんないして落ちてですよ
海の食糧みんな浮いて死んでたですよ
蛸も魚もナマコも貝もですね
この部落だけで七つくらい落ちたですかね
その雷すんだら大雨降ってですよ
海の水が真水になったんですよ
だからして蛸も貝も死んだですよ・・・
ちょうどキビ植えたばかりで
これもみんな流されたんですよ
畑ごとですね
土もなにもかも
みな一緒にばんない流されたですよ。

あれはまるで戦争のようだったよ
怖かったさあ・・・

恵まらぬ故にヨ一 親子押し連りでい
知らん他所島に 渡ていちゃしが

枯木島やていんヨ一 働らねなゆみ
生ち延びる為ぬ 運命でむぬ

ツンダサ ツンダラサ 運命でむぬ

(ヨーンの道一旅農民の歌より一
作詞/曲 知名定男/歌 鳩間可奈子)

2005年7月3日、沖縄島の子どもたちの心と体に忘れることのできない傷をきざむ事件がまたしても起こってしまいました。

その沖縄島の人たちとの交流を、兵庫教区では大切にしてきました。残念なことに、第83回教団総会とその結末が交流を難しいものにしてしまいました。沖縄の教会の人たちが示した「・・・距離を置く」という強い不信のハードルを越える覚悟がないと、交流が実現しにくくなったのは確かです。だから、尻込みするのではなく、気安くでもなく、考えて考えて交流の歩みを大切に、継続していききたいと願っています。「ヤマトンチュを拒絶する程の沖縄へのこだわりの中からは、本物の「イチャリパチョーデー」としてのヤマトンチュは得られないのではないか」(「沖縄へのこだわり」平良修、2005、511、沖縄タイムズ)、を言われていることを、今までも了解してきたしこれからも謙虚でありたいと願っています。

「戦後60年、沖縄を訪ねる旅」も「沖縄交流の旅」も、諸教会、伝道所で参加者を押し出すように、応援していただければ幸いです。その際に、交通費などどうにも不足する分を、上記の募金で応援させていただきたいと願っています。

この募金には、同封の振替用紙を使って下さい。必ず“沖縄交流委員会募金”と銘記して下さい。

沖縄教区の教会と 兵庫教区の教会が 交流を深めるための 募金のお願い

■2005年9月に予定されている、兵庫教区の教育部「戦後50年、沖縄を訪ねるツアー」(教育部青年活動主催)を支援する為。

■2006年2月に予定されている、兵庫教区沖縄交流委員会の「宮古・下地島交流の旅」を支援する為。

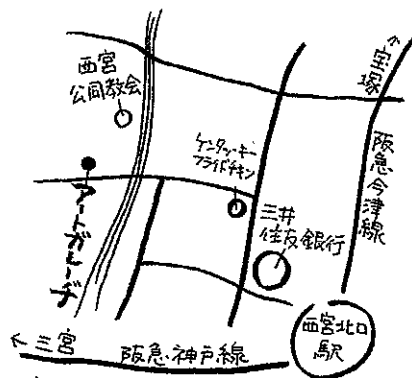
■2005年秋に予定されている、兵庫教区「教師・キリスト教教育主事・信徒研修会に沖縄教区から招く参加者の交通費の為。

■募金目標額 30万円

日時 2005年7月22日(金)

午後7時～9時

場所 西宮公会堂集会室



魯迅は、彼の活躍した 1920～30 年代に、大きな影響力を持つ“文学者”でした。言葉で悲しみを捉え、言葉で敵をえぐり、言葉で人をふるい立たせ、言葉で核心に届くという具合に、それを文学で買いて生きていました。

魯迅は、最初医学を志して日本に留学しました。その時に出会った日本人に傷つけられ、その時出会った日本人によって励まされました。その時の仙台医専で、解剖学の教師藤野厳九郎と出会った記憶が、後に短編「藤野先生」として書き残されることになりました。そこには、医学から文学に志を変えた理由も書かれています。

不和が一層の不和になって、取り返しがつかなくなった、という例はいくらでもあります。その不和を、強い意志で信頼に変えたのが、たとえば魯迅と藤野先生であつたりします。

藤野明さんは、藤野厳九郎の弟の“孫”にあたります。直接の資料なども手がかりに、ふたりの“友情”について語っていただく予定です。

共催 関西進学塾・『教会と聖書』

西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

関西進学塾・『教会と聖書』共催 特別講義

「東アジアの深刻な不和を越えるもの

——魯迅と藤野厳九郎の友情をめぐる——

藤野明 (大阪市立大学名誉教授)

今月のあ・そ・び

キャンプ・キャンプ

2泊3日の能勢でのキャンプも、4泊5日の沖縄でのキャンプも、本格的なキャンプという訳ではありません。能勢の場合の常設のテントは、しっかりした床、家型の天井の高い立派な家です。沖縄の場合、炊事などをするのは、元牧場の管理棟で、紅瓦の沖縄の建物で、宿泊するのはなぜか幼稚園の庭にあるのと同じ、アーチハウスです。要するに、キャンプとは言え、生活の為の建物が備わっているのです。

とは言え、食事に関しては、材料を持ち込み、すべてをカマドで火を焚いて調理します。今年は、班毎に“マッチ一本食事大会”も計画しています。“マッチ一本火事の元”ということわざがあります。マッチ一本で十分に火事になってしまう、ということなのです。そうなのです。マッチ一本で火事にもなるし、炊事用の火を焚けるのです。

- ① 太いマキを15cmぐらい離し、並行に置く。
- ② 細く“ハン”ぐらいの太さに割ったマキを、その上に5～6本置く。
- ③ ②の上に、親指ぐらいの太さのマキを2～3本置く。
- ④ ひと握りぐらいの太さのマキを2～3本置く。
- ⑤ 新聞紙を、8つ折ぐらいにして一方の端をねじり、マッチで点火し、①のマキの間に差し込んで、②のマキに点火すると、③、④の順に火が移って行く。

という具合で、マッチ一本で十分に火事にもなるし、炊事用の火を焚けるのです。などということ、ああでもない、こうでもない楽しむのもキャンプなのです。

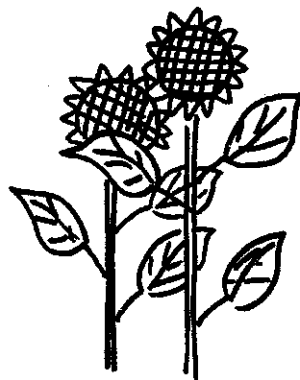
ここ数年、キャンプファイヤーは、“歌うキャンプファイヤー”です。普段、礼拝などで歌ったり、話題になったりする歌

のイントロや間奏をはぶいてメドレーで歌うのです。と言うか、こっそりCDなどからコピーして編集したものが、ラジカセから流れるのに合わせて歌い続けるのです。今年は、特に目新しい歌はないのですが、もちろん“六甲おろし”を歌います。

ちょっと変わっているのは、知る人ぞ知る御当地ソング“津門川音頭”を、歌って踊ることになっていることです。

で、キャンプの始まりなのですが、能勢のキャンプ場のふもと宿野からの約4キロを、てくてく、てくてく歩くことです。

(菅澤邦明)



☆ 今年も夏がやってきました ☆

ミーン！ミーン！ミーン！と、セミ達も大合唱！あつーい夏がやってきました！暑いとそれだけで体がだるーくなりがちですが、やっぱり子ども達は元気いっぱいです。園庭を走り、縄跳びを跳び、おだんごを作り、登り棒やうんていにチャレンジ★と、いろいろです。でもこの時期イチバンは水遊びです♪園庭に水を撒いていると寄って来て気持ちいいシャワーの下を走っていくみんな、もちろんプールでも！パンツ1枚で水の中へ♪♪なーんて気持ちがいいのでしょうか！毎朝、朝1番で『プールはいるよね♪』ってぼっぼさん達が言うのも頷けます。プールの中でも遊んでいるのが～わらべうたです。おすわりやーす♪でお友達のひざに座りに行ったり、ギッチラコ～♪と2人でフネをこいだり。こりゃどこの～♪でドボーン★と沈んでみたり。各クラス親子でも入り、お家の方々にも全身ずぶ濡れになっていただいて、目一杯楽しむ事ができました。

水遊びでとっておき★だったのは年長さんです。今年も淡路島への宿泊保育を無事に過ごす事ができました。みんなで手をつないで、うみだよ～かわだよ～♪と海に入ったり、カヌーに乗ったり。夜にはみんなで火を囲みキャンプファイヤーをしたり、『たー

まやー！』と花火も楽しんだり、みんなで一晩過ごし、とびきりな2日間を楽しみました。夜の散歩で海岸から西宮の方へ向かって、『ぼくたちは泣いてないぞー』なんてお家の人に叫んでみたけど、実は寂しくなったり、全然平気だったり。寝ても起きてもみんなとずっと一緒だなんて、ほんとに素敵★な時間を過ごす事ができました。今年も大きなケガもなくみんなが無事で帰ってくる事ができて本当によかったです。いろんな方々に支えていただいたの2日間でした。本当にありがとうございました。

ところで、夏といえば何が思い浮かびますか？海、山、川、キャンプ、プール、西瓜、花火、蝉、向日葵、入道雲、風鈴... 思い浮かべるだけで、なんだかウキウキしてきませんか♪幼稚園もいよいよ夏休みに入ります。みんなの声で賑やかな園庭もセミの声だけが響き、少し静かになります。皆様どんな夏を過ごされるのでしょうか。今年も暑い毎日になりそうです、体調に気をつけてステキな夏をお過ごし下さいませ。一段と黒くなって、なんだか一回り大きくなった共同っ子達に会うのが今から楽しみです♪

(石堂寛子)

教会学校から

《7月・夏休み中の活動》

- ◇7月24日(日) キャンプの準備をします。
- ◇7月25日(月)～27日(水) 共同子ども能勢キャンプ
- ◇8月3日(水)～7日(日) 共同子ども沖繩キャンプ
- ◇7月31日(日)～8月14日(日) まで夏休みです。

8月21日(日) から始まります。8月21日はにじきた夏祭りです。

- ◇8月25日(木) 夏休み子ども系のご教室



7月21日から、幼稚園などの仕事は夏休みになります。たくさん子どもたちとの生活が、一区切りということでは、少しばかりほっとします。でも、25日からは教会学校の子どもたちとのキャンプです。ギリギリのスタッフで、手抜きをしないで盛り沢山の内容で、90人を越える子どもたちと過ごすのですから、準備も大変です。そして真剣勝負の2泊3日を過ごすこととなります。キャンプから帰って、28日、29日は、幼稚園の先生たちの研修です。そして、3日から7日は沖縄で小学生5年生以上の子どもたちのキャンプです。沖縄と沖縄の人たちと、どんな出合いをするのか、いろいろ難しい沖縄の状況に心を痛めながら準備しています。

(K)

なつ！ナツ！夏！なんだかいよいよ夏本番ですね～。季節の中でも私の1番好きな季節です。どこかへフラリーと行きたくなる～旅の季節★どこへ行こうか考えるだけでウキウキしてきます。ガタンゴト～♪ガタンゴト～♪電車で揺られて流れる景色をポーッと眺める、素敵だなあ。この夏はどこへ行こう♪

(I)

私はお風呂が大好きです(お風呂とか温泉)。西宮に来てからはめっきり銭湯がなくなりですが……。この温泉好きは良心に似たのかなあ。実家の近くにはたくさんの温泉があり、ヒマさえあれば温泉へ。そして今では実家に帰ると必ず父・母・私で行っています。待ち合わせ時間は、だいたい2時間後。湯船に入ったリサウナに入ったりしてると、あーっという間なんですよ

ねー！いつか温泉めぐりしたいなー♪
(H)

幼稚園の畑のひまわりがぐーんと伸びてビックリ！子どもたちと背くらべをして楽しみました。夏の花の思い出といえば、キキョウ。ふうせんのようなつぼみを、指でプチプチつぶしては、おばあちゃんに叱られました。今思えばなんてかわいそうなことを……。

夏の終わりに、花開いたキキョウを見るたびに、あの頃の空気を思い出します。

(M)

思いがけないことから転居となった今の家、突然ある夜遅く「ここにしようと思うんだけれど」と案内された我が連れ合い、周囲の環境と家の外観を見ただけですぐさま「いいじゃあない、この話すすめたら」。彼は転居前日になってはじめて中に入った。でも近辺は何度かそれも夜こっそり歩きに行った。そして2人でますます好きになった。時々、うん？臭いと思うこともあるけれど、川がある。竹林がある(ゴーヤのたなになった)。家のぐるり木々が豊かで、今年も冷房なしの生活が進んでいっている。何が好きとって、住んでいるみんなが自分の町を愛しているってことが感じられるから。公園もきれいになった。大きく広がる木々の一帯も下草がすべて刈られてすっきりした。すべてボランティア、何て事ないって顔で作業をご自分の手のあいた時にしておられる。草の間に埋もれそうになっている花をきっちり残すていねいな作業だ。

(J)